

碧い空 2

～ episode 0章～

真木 愛華

MakiAika

碧い空 2

～ episode 0章～

真木 愛華

MakiAika

プロローグ

碧い空が教えてくれた

ようやく辿り着いた二人の旅立つ瞬間に

雲間から見せた淡い光が

この世から消えたシグナルだったと……

少しずつ歯車が崩れていったすべての運命にも

すべての事の始まりを語れるであろう

時間軸を戻しそれぞれが導かれていく

取り戻すならば

何処から手を伸ばせられたであろう

すべての出来事を悲観したところで

元に戻ることはない

ただより愛しく想えた瞬間もあっただろう

少しでも長くそばにいたことができていたなら

そう叫べたこともあっただろう

ただどんなに願っても

結ばれることはないのだと

儚い想いを伝えることもできず

静かに一人で旅立ったあなたの最期を

残された者に一番辛い哀しみを与え続けていた

愛されていたことを気付けずにいた者と

想いを伝えずに逝った哀れな二人の

悲しい愛を紡いだ物語だった

碧い空が教えてくれた

未来はすべてここからだった

まだ語られていない部分も

ここであきらかになるだろう

碧い空は限られた季節の中で
その光景を目にする

ほんの一瞬でも輝いた時間を
忘れることはないだろう……



目 次

プロローグ 2

前作『碧い空』 あらすじ 6

episode 0章 その1	生霊の足取り	9
episode 0章 その2	事件解決後の足取り	37
episode 0章 その3	事件発生までの足取り	75
最終章	すべてのはじまりへ ～生霊の誕生～	91

エピローグ 111

巻末付録 ～登場人物紹介とその後～ 121

あとがき 125

前作『碧い空』 あらすじ

美村圭吾は警察の刑事課に勤務する。家族は妻がいるが子どもはいない。

毎朝、通勤は自転車以最寄駅近くの駐輪場へ行き、電車に乗って通っていた。

そこで、圭吾は一人の女性を見かけていた。

ある日、圭吾の管轄内にある総合病院玄関先で刺殺事件が発生。

刺した男はその場で逮捕され、被害者の女性は死亡。その場にいた女性職員が重要参考人で任意で事情聴取にやって来た。

それが、よく見かけていた女性、横田美恵だった。

圭吾の前に座り、圭吾が担当となり、事件の概要を知っていくこととなる。

取調べ後に、美恵は重要参考人のため拘留されたのだが、双子の妹が被害者だったことと、本当は美恵を狙っていたのを間違えて刺されたという事実を聞き、シヨック

を受け突然倒れ、警察病院へ搬送される。事件解決への道が閉ざされたかに見えた。

その間美恵は、兄から絶縁されたり、会社から解雇通告を受けるなど理不尽な出来事があったりした。そして、圭吾たちまで事件に巻き込まれ、圭吾も襲われ重症を

負うが、意識が戻らないはずの美恵の生霊が現れ、首謀者たちは全員死亡した。

圭吾が襲われた現場に、事件の真犯人が存在していたことに気付いたのは、美恵が亡くなってからのことであった。

すべての事件が解決し、美恵のいない日常が始まろうとしていたが、圭吾はある日の通勤時に交通事故に遭遇し即死する。妻の詩史とは、美恵が他界後に別れ話をしていた圭吾であったが、葬儀が終了後に詩史は妊娠していることに気付くのであった。遺品整理後に自宅に訪れた圭吾の後輩の森下が、詩史を気遣っていた。そして、美恵の遺骨は圭吾が寺に預けていたが、圭吾が亡くなったことで美恵の遺骨はその寺の墓地に埋葬される時期が早くなった。

遺された者たちが哀しんでいる中、死後圭吾が突然気付いた。目の前に美恵が野原に座っていた。圭吾は自分の気持ちを伝えるように美恵を抱きしめた。すると、二人の魂は空へと導かれ、ともに消えていった。優しい光に包まれた景色の中で、自分たちの身体が消えていく痛みなど感じずに……。

※内容は抜粋された形になっているため、前作の『碧い空』を引き続き拝読していただきますと、物語の構成に分かりやすさが組み込まれています。



episode 0章

その1

生霊の足取り

静かな街並み。

大通り沿いにある総合病院。

パトカー数台が突如出現し、病院ロビー前に停まる。

複数人の刑事たちが車から降り、病院の中へ入る。

数時間後。

事件を知ったのか、マスコミが病院前に集まっていた。

夕方のニュース番組で、刺殺事件が報道される。

(美村圭吾の声)

「総合病院の刺殺事件が起きた日、取調べの初日の後、俺は重要参考人でもある横田美恵を独房の方へと送った。当初は身の安全のためという目的と、事件は簡単に解決されると思っていた。だが、何も語らないまま初日の夜、独房で美恵は倒れ、警察病院へと搬送されることになった。それから数日後のことであった……」

〈警察病院内・病室〉

「面会謝絶」と書かれた札がドアに提げられている。

監視の警察官が一人当番でいる。

そこに刑事である美村圭吾がやって来る。

圭吾 「少し中に入るから、見張っていてくれ」

刑事 「わかりました」

病室の中に入る圭吾。

眠っているのは横田美恵だった。

(総合病院玄関先で事件が発生後・十日目過ぎ)

眠ったままの美恵。

圭吾「美恵……たくさん伝えたいことが……あるんだよ……目を覚ましてくれ……」

圭吾の本心が言葉に出る。

だが、美恵は眠ったままだった。

(圭吾の声)

「俺がこんな言葉をかけている間に、彼女の魂が生霊になって彷徨うという騒動が起きていた……」

(美恵の生霊)

美恵が見てきた世界。

灰色の煙の渦が突然現れる。

突風が突然できたような感じの状況に似ている。

それが人の形になる。

灰色の煙はやがて消える。

現れたのは横田美恵。

美恵「ここは……私、さつきまで警察にいたのに……」

目の前に自分の自宅がある。

身体に痛みはないが、違和感は続いている美恵。

一瞬、自分は消えたと思えた。

何が自分の身体に起きたのか、まだ把握できていない美恵。

美恵の実家前。

美恵「ここは家だ……私の家……」

真っ暗で誰もいない。

途中省略

続きは製品版にてお読みください。

著者プロフィール

真木 愛華 (まき あいか)

12月31日生まれ、滋賀県出身。

中学時代より執筆に興味を抱き、平成13年から17年にかけて3冊を刊行するが、15年の制作期間中に一旦充電する。

だが執筆はあきらめずに続け、本書の上梓に至る。

大阪、京都市内で医療事務に携わる。

趣味は舞台や映画鑑賞。コンサートなどにも興味がある。

著作に『碧い空』（2011年9月 文芸社）がある。

碧い空2 ～episode 0章～

2015年1月15日 電子版発行

著者 真木 愛華

発行者 瓜谷 綱延

発行所 株式会社 文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

© Aika Maki 2015 Coded in Japan

ISBN978-4-286-15704-7

- 本作品の全部または一部を複製、編集、修正、変更、頒布、貸与、公衆送信、翻案、配布する等の著作権及び著作者人格権侵害となる行為、および有償・無償に関わらず、本データを第三者に譲渡することは禁止いたします。